ぐるっと東北

自由な生き方を培った

母校をたずねる　県立山形南高 5

エンジン開発会社代表　山崎正弘さん＝1969年度卒

山崎正弘さん(66)＝20期、1969年度卒＝は自動車や発電機用のエンジンを開発する会社「ワイ・ジー・ケー」の代表です。仏ルマン24時間耐久レースにも、エンジン供給者として参戦しました。県立山形南高（南高）時代に「人に左右されない」生き方を培ったと振り返ります。【中村俊甫】

南高は自由で、ルールは自分たちで決めるという校風でした。当時は制服・制帽の着用義務はなく、オートバイや自動車通学も認められていました。また学生運動が盛んだったので、高校生ながら活動する人もいました。

幼少期から父の車やエンジンが家にあり、好きになりました。南高では授業中に自動車のエンジンの絵を描いたり、本を読んだりしていました。先生には当然怒られましたが「よく描けているな」と言ってくれる先生もいました。他校では考えられません。今でも先生方のおかげで卒業できたと思っています。

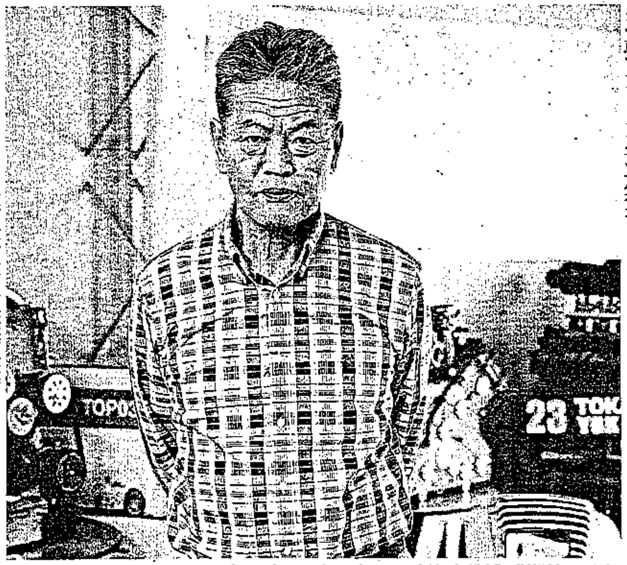
仲が良かったのは高校浪人して入学した一つ年上の同級生でした。よく面倒を見てもらい高校2、3年の頃はバイクや車でツーリングや旅行をするようになりました。3年の夏休みには同級生の車で日本一周もしました。道に迷ったら人に聞きながら進み、野宿で汗だくになったり、いきあたりばったりの旅でした。

3年の担任は美術教師で画家の橋本昌夫先生です。その年の秋に父を亡くし「どうすればいいんだ」とぼうぜんとしていました。その時、橋本先生が「自分のやりたいことをやればいい」と背中を押してくれました。決まっていた県庁への就職を断り、東京の大学に進みました。

今は日本で指折りの技術者を集め、エンジンを開発しています。日本の自動車メーカーのエンジンは古い設計を改良してコストダウンを図っているケースが多いのですが、「これでいいのか」という疑問から開発を始めました。でも、自動車メーカー以外の成功事例がなく、周囲からは反対されました。それが今では、開発したLPガスで動く非常用小型発電機が国土交通省を通じて公道に設置されるまでになりました。20～30年かかり、ようやく報われる時が来ています。

一方、エンジンだけでなく自動車を作る夢もあります。工学博士の林義正さんらと（レース用の）エンジン作りをしてきましたが、完成車が目標です。いつかその車でルマンに出場したいし、必ずできると思っています。

フランク（素直に）に物事を考えれば、自分の道はおのずと開けると考えています。それは多感な時期に自由な発想を育んでくれた南高のおかげです。また南高時代の旅行体験から「分からないことは知っている人に聞け」とも思っています。人生旅のごとしです。だから後輩にも、物おじしないで、困ったら周囲に聞いてほしいと願っています。



＝東京都大田区で、根岸基弘撮影

やまざき・まさひろ　1951年、山形市生まれ。明治学院大文学部英文学科中退。1980年、山形市に学習教材販売会社を設立し、85年に社名を「ワイ・ジー・ケー」とし、98年から自動車エンジンの開発を始める。2008年には東海大教授（当時）の工学博士、林義正さんや学生とともに、フランスのルマン24時間耐久レースに参戦。11年まで各国のレースに挑戦し続けた。長男英士さん(34)も南高の卒業生。

卒業生「私の思い出」募集

県立山形南高卒業生のみなさんの「私の思い出」を募集します。300字程度で学校生活や恩師、友人との思い出、またその後の人生に与えた影響などをお書きください。卒業年度、氏名、生年月日、職業、電話番号、あればメールアドレスを明記のうえ、〒100―8051、毎日新聞地方部「母校」係（住所不要）へ。メールの場合はshuto@mainichi.co.jpへ。いただいた「思い出」は紙面や、毎日新聞ニュースサイトで紹介することがあります。

盛り上がる 山形のライバル対決

昨年行われた「南東戦」＝山形南高提供

「山形の早慶戦」と呼ばれる一戦がある。毎年、行われる山形南高と山形東高による野球の定期戦だ。山形南高での呼び名は「南東戦」で、山形東高では「東南戦」となる。ともに甲子園出場経験があり、山形を代表するライバル校同士による負けられない試合だ。

山形南高などによると、始まりは1963年。野球部の技術向上や活性化を願う両校OBが音頭を取ったという。70年代には地元の民放局がテレビとラジオで中継放送をするなど、その一戦は両校関係者だけではなく、地域の人々の関心を集めた。

当時はOBが宣伝カーを繰り出して、試合を告知したり、前夜祭を開いたりと、大いに盛り上がったという。今年は9－4で山形南高が快勝した。山形のライバル対決はこれからも続く。【浜名晋一】

＝毎週金曜日に掲載

ベストセラー

①ゼロトレ（石村友見、サンマーク出版）
②おしりたんていみはらしそうのかいじけん（トロル、ポプラ社）
③おもしろい！進化のふしぎ続々ざんねんないきもの事典（今泉忠明、高橋書店）
④緊急出版！枝野幸男、魂の3時間大演説（ハーバービジネスオンライン編集部、扶桑社）
⑤ナナメの夕暮れ（若林正恭、文芸春秋）
⑥コーヒーが冷めないうちに（川口俊和、サンマーク出版）
⑦英単語の語源図鑑（清水建二、かんき出版）
⑧すぐ死ぬんだから（内館牧子、講談社）
⑨下町ロケットゴースト（池井戸潤、小学館）
⑩わけあって絶滅しました。世界一おもしろい絶滅したいきもの図鑑（丸山貴史、ダイヤモンド社）

山形市　八文字屋調べ

i 出会いふれあいインフォメーション

同窓会

■都立北園高第20期同期会＝1968(昭和43)年卒　9月29日14時　グレースバリ池袋本店地下1階(豊島区、池袋駅)。会費6000円。ホームページ(https://kitazono20ki.jimdofree.com/)、藤田修一080・4130・8835

■森吉会第32回総会（交流会）　9月16日11時、アルカディア市ケ谷3階富士（千代田区・市ケ谷駅）。秋田県旧森吉町出身者かゆかりのある人。会費8000円。事務局047・470・6194

ふるさと情報

【山形市】「日本一の芋煮会フェスティバル」　9月16日、馬見ケ崎河川敷（JR山形駅から路線バス）。1989年から続く秋の風物詩。巨大な鍋に里芋、コンニャク、牛肉、ネギやしょうゆをたっぷり入れ、3万食を煮炊きする日本最大規模の芋煮会。92年から使用した2代目の巨大鍋が引退し、今年は日本一大きい直径6・5メートルの3代目が登場する。事務局023・622・0141

【群馬県みなかみ町】「天空のナイトクルージング」　9、10月の毎週金土曜と9月16、23日、10月7日19～21時、谷川岳天神平。夜間に特別運行されるロープウエーで、標高1300メートルの高地まで夜の空中散歩を楽しめる。天候が良ければ満天の星も観賞できる。強風や荒天は中止。山頂のゲストハウス「ビューテラスてんじん」では天体のミニ講座など室内プログラムも用意。大人2500円、小学生1300円、未就学児無料（いずれもロープウエー往復券含む）。町観光協会0278・62・0401。

【栃木県日光市】「世界遺産清掃活動　日光山輪王寺をおそうじ」　9月24日14～17時、日光山輪王寺(りんのうじ)（JR日光駅または東武日光駅から東武バスと徒歩で計約20分）。「清掃の日」に合わせ、清掃業大手ダスキンが企画する子ども向けイベント。世界遺産について学ぶ講座の後、国重要文化財「法華堂」や渡り廊下などを掃除する。参加無料。募集人数は130人で、多数の場合は抽選。応募は9月10日まで、特設サイトhttps://sekaisan-osouji.jp/で受け付ける。

「急に秋めいて」東京都大田区・大野喜子さん　画

「同窓会」「県人会」「旧友会」の掲載を希望される方は、開催の1カ月前までに資料を〒100－8051(住所不要)毎日新聞地方部遊ナビ係に郵送してください。カット用のイラストや写真も募集中。掲載作は本社電子媒体にも収録します(掲載分には記念品を贈呈)。資料・作品は返却しません。ファクス(03・3212・0483)

当社が施工した
70
※弊社が2016年5月～2017年4月に施工した実績